

令和3年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

1 日時 令和4年3月3日（木）午後1時30分～午後3時10分

2 会場 職員会館かもがわ3階

3 出席者

評議委員：荒木かおり、宇佐美英機、片山真理子、坂本博司、竹村佳子、
玉城玲子、中尾亮弘

京都市：文化市民局文化芸術推進室山口担当部長（事務局長）

文化財保護課牧山課長、文化財保護課安井係長

歴史資料館 井上館長、中村次長、松中、秋元、吉住、野地、井上

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議事運営

（1）開会

【京都市】

本日はありがとうございます。時間にはなっておりませんが、みなさんお揃いになりましたので、始めさせていただきます。皆さん、発言されます時は、マスクをつけたまま、結構でございます。その代わりに、マイクを使わせていただいて、聞きやすくすると。それで、こちらの方で、録音もさせていただきますので、そのような形で、お願いいたします。

本日は、年度末のお忙しいところをお集まりいただき、まことにありがとうございます。令和3年度京都市歴史資料館評議委員会議を開催させていただきます。

本会議につきましては、京都市市民参加推進条例第7条に基づき、公開とさせていただいております。現在のところ、傍聴の方はおられませんけれども、来られましたら、随時、傍聴いただくということにさせていただきたいと思っております。

また会議の資料および、議事録については、後日、京都市の公式のホームページ「京都市情報館」で公開させていただきますので、宜しく願います。

それでは、開会にあたりまして、館長の井上からご挨拶申し上げます。

（2）開会あいさつ

【京都市】

評議員の皆さま、こんにちは。京都市歴史資料館長の井上と申します。

日頃は、本当に何かとお世話になり、また年度末の最もお忙しいところ、皆様方、やれ委員会やと、混んでおられるかと思っておりますけど、ご出席いただきまして厚く御礼申し上げます。で、この一年の京都市歴史資料館の事業内容については、後ほど、お手元の資料等により詳細にご説明させていただきたいと思っております。

毎年みたいなご挨拶をしますけれども、京都市歴史資料館も、ここ数年、かなりの曲がり角となっております、これをうまく曲がりきれぬかどうかと、そして、うまく着地できるかどうかと、いうことを日々、頭を悩ませております。

京都市は、財政の極度のひっ迫の状態であること、メディア等を通じて、知れ渡っております。その波は、もちろん京都市歴史資料館にも、押し寄せてまいることになると思っております。ですけれども、そういう時期であるからこそ、資料館の館員はもちろんですけれども、皆様方のお力、お知恵をお借りしまして、知恵を発揮する時期にきているのではないかと、思います。

金のないところは知恵で転がせと、そういう形で乗り切っていく、しばらくしたら、日影が来るかとも考えられますので、一層、皆様方の、これまで以上にご支持、お力添えをいただくことになろうかと思っておりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

(3) 出席委員・出席者の紹介、配付資料の説明

(4) 令和3年度事業報告説明、質疑

(資料4に基づき説明)

【評議委員】

Facebook と Twitter ですよね。京都市歴史資料館さんも 10 月からされていたのを見ていたんですけれども、運用の方針とかはあったのでしょうか？ちょっとだけ聞いてみたことがあるのですが、割といろいろと制約もあつたりするようで、何を書いたらいいとかか。

【京都市】

私どもも経験不足ですので、何をしたらいいのかというのが、正直なところなんですけども、やはり展示内容をこまめにご紹介しようというのと、あと、今まで刊行してきた叢書を紹介してですね、こんなものを刊行しているんだよというのを、紹介しようとしております。今後はもっと細かく、できたらなあと思っておりますけれども、今は、そんなところから始めている次第です。

【評議員】

関連するのですが、Facebook とか Twitter とかいうものを、館の中で、どなたがやっておられるのか、伺えればと思ったのと、その、機器は館の機器としてあるものを使ってやっておられるのか、というのをお聞きしたい。

もう一つ、画像の提供で、お金を商業利用の場合、とられるとありましたけれども、画像一件につきいくらか設定されているのかということと、それと「入」についてはどのように

処理されているのか？雑に入るのか、それとも違う、特別なところに入るのか？

【京都市】

誰がやっているかということですが、一人の職員に担当していただいて、情報が集まるように、詳しい方に情報をいただいて、私どもが決裁してあげております。その機器は、京都市が、私どもが使いたいということです、配布されたものがございまして、公的機器を用いている。公的な機器です。

画像データでございますが、一件4,000円ということで、やっております。最近はずね、いろいろ再放送とかされることもございますので、見直しをせないかなあと、今年度から始めたことでもありますので、問題点も見えてまいりまして、いろいろと改めないといけないところも出てまいりましたので、考えながら、今、進行している次第です。

どこにいれるかですが、雑入でございます。

【評議員】

同じような質問でなんですけれども、画像についての、有料ということはHPにあげられているのでしょうか？というのは、かつて学芸員などをしておりました経験上、予算の関係上、すぐに情報が得られるといいと思っておりますので、そういったところは、HPに掲示していただければと、私、見たこと、知らなかったもので。

Twitterも始められたということですが、Facebookは去年教えていただいたので、見せていただいたのですが、Twitterとの区分けというか、同じようにあげられているのか、分けて考えられているのか？

Facebookで見たときに、大きな魚をなんか、館の前でなにかされていて、声が大きくなって、何をされているのかわからなかったもので、どういった状況だったのかを教えていただければと。

【京都市】

HPでは、わかるようにあげているつもりなのですが、つい最近なんですけれども、館内でもわかりにくいよねということで、画面を変えようという意見がでておりまして、見直しをさせていただいて、わかるようにしたいと思っております。

FacebookとTwitterですけど、今のところ、これはこう、こうはこうと明確に設けているわけではありません。

魚のことなんですけど、これは、市電展をやっております時に、オオサンショウウオを、市の指定文化財になっておりますから、これを水を使いますので、館の前で、展示というか、子どもさんに触ってもらおうとか、見ていただくということでやりました。

映像として見にくかったということなので、ちょっと反省したいと思います。不慣れなもので、申し訳ございません。

【評議員】

できましたら、前もちょっと申し上げたんですけど、展示のガイドというものを、動画であげてもらおうと、より魅力を感じるんじゃないかと思ひますし、音声のガイドなんていうのは、導入はすごく大変ですけれども、声だけでもガイドの動画をあげてもらえと、見に行きたいなという気持ちができるのかなと思ひます。工夫はいると思ひますけど、ご検討いただければと思ひます。

【京都市】

ありがとうございます。参考にさせていただいて、検討したいと思ひます。

【評議員】

少し関連するんですけど、画像の利用については、どのようにその媒体を、お貸しなされていますか？例えば、CDに焼くとか、送ってしまうとか、方法ですね。お聞きできればと思ひました。

【京都市】

画像の利用につきましては、撮影したいという時には、撮影の許可を出すということで、画像のデータが欲しいという時には、メールでのやりとりはしておりませんので、CD-Rですとか、DVDをお送りいただいて、そちらの方にデジタル画像を入れて、お渡ししております。他で流用されることは困りますので、お渡しする時に、使った後には、必ず消去してくださいという形で、提供させていただいております。

【評議員】

ありがとうございます。私の経験上、そういった時にですね、CDとしてお借りしたものを、出版物に使った後、パソコンの中の画像を消して、さらにそのCDを返却するところまでなさっている館があったので、そのあたりどうなのかなと思ひて、ちょっと気になって、質問しました。

【評議員】

画像データにもちょっと興味があつて、ちょっと歴彩館のホームページをミュージアムを見ているんですけど、そこ、そのままダウンロードできるんですよ。範囲内ですけども、使ってくださいということで、非常に便利なんですよ。あそこまでいかないと、使いづらかなあというところがあるんですけども。そこまでのシステムを構築するというのは、どうなんでしょうか。

【京都市】

現在のところは。

【評議員】

私も、公開されている HP を見て、たしかに、わかりにくい説明だったんで。

私らが古文書なんかを撮影したいというようなものの、研究のためだけにやりますって時に、あそこの説明、もう少し、どこが無料ですよっていうのを先に書いてもらわんと。冒頭のところで、商業出版に関するものは有料であるけれども、学術研究の場合においては、無料であるというような書いてもらわんと、全部読まないで、私らもお金取られるの？ってことになる。わかりにくいっていう、感想です。

それとは別途に、画像のことで HP 見ていくと、目録の画像というのを、去年もそうですけど、これはこれからの先の計画で、解説はちゃんと全部載ってますよね、それはそれで、ありがたいんですけど、肝心の史料の目録がね、やっぱり何にもないってというのは、結局、あの解題だけ読んで、関心があるところ見に来なさいってという話で、遠隔におる人間にとっては、非常にこう利用しにくい。ある意味、解説だけで。かつての京都市史のところとかの、ここの伝来の家の文書がこうで、ここの行政区の文書はこんなものがありますってという説明もありがたいんですけど、いったいどんな文書があるのんかいってということ、肝心の目録が PDF 化されていないので、やっぱり、それを早くしてほしいなあという、思います。

でえ、それはたとえば、国文研と画像のリンク張ってますよね。あれも国文やる人には楽しいやつなんだけど、資料館のもっているような、歴史とかの画像は何も、こう、あがってこないんで、なおかつ、リンクを張ってるところも、国文研いけば、そりゃ国文研にあるんですけど、もう少しホームページにリンク張ってもらった方がいいんじゃないかと思うんです。たとえば、山鉾町の文書なんかを、展示するというか見なおすとかかしていますけれども、あれだって、歴彩館の京都府立大のところが山伏山町をやりましたよね。ああいうところもふくめて、ちょっと少し、歴史資料館と関わりのあるようなところとかが、お互いにリンク貼ってもらった方が、京都研究やる人にとっては、京都のこと調べるのに、すうっと一か所からいけるので、ここのホームページからはリンク張ってあるところが非常に少ないので、また別のところの HP にいかなあかんというような構造になっているから、いうふうに、思うんです。

ついでに、私が勤めとった滋賀大の歴史史料館にリンク貼ってあるかということ、貼らんのですけど、それはまあ、いろんな事情があって貼ってはいないんですけど。

こういう形で、PDF 公開していくという形を進めていくという、ここをちょっと考えてもらいたい。実際は、お金がないし、滋賀大の方でも、お金がないんで、なかなかできない。同時に、全部がのせられるかっていうと、所蔵者の関係とかいろいろありますので、何を乗せるか載せないか、結構、所蔵・現蔵者の方と、交渉もしないといけませんし。目録それ自体も、必ずしも全部 PDF であげることができるかっていうと、それはそれでまた、

いろんな手続きがややこしく、現蔵者の方との交渉があると思うんですけど、長期的には、PDF 公開で。毎回来て、部屋行って目録くるというのは、もう、さすがに年取ってしんどいで。家において、目録見れるようにしてもらおうとありがたい、という。

それから、四年度以降の計画にもなるんでしょうけど、さきほど確かに、ホームページとか見て行って、今度、売れすじがよかったから、叢書を復刻しましたって記事も載ってますけど、もうひとつ、叢書だけの話なのか、むしろ、むしろちゅったらおかしいけど、紀要の方でね、すでに完売というふうになってしまっている、二・三冊ぐらいあるじゃないですか、紀要が。その紀要なんかの、それを第2版じゃないけど、復刻してもらおう方がありがたいかなっていうのと、雑誌そのものは、私は紙の媒体も好きですけど、だんだんと、予算の制限かかってくるのであれば、電子媒体化で電子雑誌にするという方向も考えられたらどうかな、というふうにも思います。個人的には、紙の方が好きですよ、もちろん、紙の方が好きなんですけど。だんだんと、いろんな学会誌とか含めてみると、もはや紙媒体を出さずに、大学の紀要とかも電子媒体で、紙を廃止していったる紀要が多くなってきたので。長い流れとしては、そういう方向性もありうるのかなって。

昨日、ここのホームページを眺めていて、隅から隅まで眺めながら考えてきたところです。すいません、とりとめのないことばかりで。

【京都市】

ありがとうございます。順番がいろいろとなってしまうかもしれませんが。直近で出した紀要を電子化するのかどうかってところは、議論があったところでして、今後はやはり、電子化の方向なのかなあっというように思います。

紀要もたしかに売れ筋のものは在庫がない状態でしたので、これも、叢書の立入家文書も再刊したいなと、近々したいなと思いますけど、紀要についても意識したいなと思います。ありがとうございます。

リンクについては、どういった制約があるのか、すぐに思いつきませんが、ご意見受けて、考えたいと思います。

あと目録の話ですけど、やはり、私いま3年目になってございますけれど、やはり目録の整備ができていないなっていうのが、ここ勤めてやってございまして、ほんとに、徐々に取り組んでいるところで、来年度からは本格的に、年数も限って、やり遂げたいということで、いま、考えて、話をしているところです。それができあがると、電子媒体で、どんなものがあるのか見ていただけるような状態になるんじゃないかということで、まあ、来年すぐにできるというわけにはまいりませんが、来年度から、本格的に、腰を据えて、取り組んでいきたいと思っています。ご指摘いただきまして、尻を叩いていただきまして、私どももやってまいりたいと思っています。ありがとうございます。

(5) 令和4年度事業計画説明、質疑

(資料5に基づき説明)

【評議員】

40年もたちますと、収蔵庫もいっぱいになっておられると思うんですが、建物自体もそれほど大きくないですし、収蔵庫は拝見したことがあるのですが、京都市の規模ですと、おそらく建物に収まりきらないくらい、たくさんの収蔵依頼とかが、ものすごくたくさんあると思うんですが、たぶん、飽和状態じゃないかという想像するんですけども、そのへんの状況がどうかっていうのを教えていただきたいのと、別の場所に保管されているところがあるのかっていうのと、あるいは、40年を機に、新しい、環境にずいぶん見直しをされているってことなんですけど、スペース自体をどう考えるとかですね、そのことは、どのように進めておられるのでしょうか。

【京都市】

非常に痛いところですよ。本当に、もう満杯に近づいているというか、状況でして、課題としては、やはり、40年たちますので、できれば他館と合築して、そこに移りたいと、目指したいという思いがございますが、なにせ京都市の財政事情ですので、それもなかなか早急には進まないという状況でございます。

そんなところから、小学校跡地に保管しているものもありますし、市役所の別の施設で保管しているものもございます。令和2年度に大量に移したこともございます。そのような形で凌ぎながら、なんとかやっているというのが、正直なところですよ。大きな課題だと認識しております。即の解決策は、今のところ見出してないというところがございます。

【京都市】

施設の問題は非常に大変なことだと思っております。今は市の財政状況がよろしくないということで、現状としては、既存の施設を探して、そこになんとかもっていくというのが、精一杯の現状だと思っております。

歴史資料館もそうですし、考古資料館もかねてから、京都市の歴史を見られる場所を、ちゃんと作っていくべきだというような声もいただいていますし、そういうことも考えていきたい。かたや、市立芸大の移転であるとか、文化機能の整備も進んでいるところですけど、まだ博物館機能の部分について、まだ整備は進んでいないと思っております。やっていけないんじゃないんですが、ただ今後、将来のことを考えたときに、箱モノ行政みたいなことでいいのか、どのようなかたちがいいのか、大きければいいというわけではないでしょうし、人の問題もありますから、その辺り、よく議論を重ねていかないと、仮に財政が潤沢であっても、理解はなかなか得られないんじゃないかなあと思っておりますので、議論をしていきたいなあと思っております。ただ、京都市ならではの、京都市として、全国をリードするよ

うな博物館像みたいなのが見いだせるといいのかなあと、何ができるというわけではないんですが、そういうことは検討していかなければいけないなど、課題だと考えております。

【評議員】

2点お話したいのですが、一つはデジタルスタンプラリーですね、前の時にお話し聞いていまして、自分でも実際にスマートフォン使ってさせていただいて、スタンプを、全部集めてませんが、近場でやらせていただいて、なかなかいい取り組みだなと思っております。ですので、もうちょっと、いろいろと範囲を広げてか、展示と関係するようなことも合わせて、発展させて、いろんな所と共同していかれたら、いいんじゃないかと思っております。

もう一つ、講座の方なんですけど、今、会場にはもう、大体半分の方ぐらいしか入ってもらえないという状況ですし、Zoomなんかを使って、両方、会場とZoomとで、たくさんの方に聞いていただくというような取り組みも、あんまりお金のいらぬことで出来ると思いますので、そういったこともご検討願えたらと思っております。

【京都市】

スタンプラリー、ご参加ありがとうございます。今後も検討させていただきたいなあと考えています。

まだ、わが館ではZoom経験がございませんけど、他の部署ではそういうことはじめておりますので、聞いて、考えていけたらなあと考えています、ありがとうございます。

【評議員】

もともと3年ほど前から、京都府から自転車のサイクルツアーのガイドの養成がありまして、そういう感じで、京都府からガイドツアーの指導をしているんですけども、京都府から見ていた時期がありまして、京都府の南の方、京都市からも観光客がくるっていうのもあって、いろんな歴史資料館とか京都府下の館とかいろいろ回って、こういう資料あるんだなあと見て回っていたんですけども、自分が思っているのは、山城国というテーマでやった方が、京都市の歴史ってすごいわかるんじゃないかなあと考えていて、どうやってコース回ったらいいかずっと考えているんですけど、南の地域、すごい空白地域があるんですよね、ほとんど鳥羽伏見の戦いの説明するものが何もなくて、南に行くと八幡市とか枚方市になっていくんですけど、見に行くものもないし、地方の人から見ると、わりと、あの戦いってどこにいったら見れるんですかっていうのが、わりとあるようなので、もうちょっと京都市とか区で歴史資料館さんと連携していただくと、非常に・・・。

笠置寺のガイドをしていまして、資料集めとかもしてるんですけども、ガイドとかも若い人いなくて、他の地域もそうなんですけど、そういう有料ガイドっていうのは、いた方が、観光資源にもなるんですけど、京都市でも資料貸し出しに有料化になってくるんで、ボランティアガイドさんもいっぱいおられるんですけど、限界があるんで、まいまい京都みたいな

有料化にならざるをえないのかなあと思っているんですけど、そういう有料ガイドってどういう立ち位置にあるべきかっていうのが、今ちょうど悩みどころです。

【京都市】

京都市の観光の部局に聞いていただければと、そんな感じもしておりますが、ありがとうございます。

【評議員】

私は、皆さん研究者の先生方とは違った立場でございますので、そういったところから行きますと、祇園祭の山鉾の関連の事業・仕事にも携わっております。そういった目から見ますと、非常に山鉾の、安井さんもよくご存じだと思うんですけど、山鉾の懸装品であったりとか装飾品というもののすばらしさっていうのは、修理をする中で、すごく実感しております。

その中で、なかなか観光客に対して、今回すばらしい最高の入場者数をとらえたってことも、ありますが、そういったことを望んでられるのであれば、やはり祇園祭という絶対に人を呼び込める、深い伝統があるわけですので、そこのところとの、山鉾連合会さんとの、もう少し深いタイアップと展示と、この展示がどういった見せ方をするのか、ただ単に並べるのではなく、こうやって作っているのかとか、こういう技法を使っているのか、というような奥深い、調査に基づいた展示をしていただくと、よりいっそう、ディープな祇園祭を楽しめるんじゃないかというような気がいたします。

来年は、祇園祭の頃はどうなるかわかりませんが、お祭りの頃と合わせるかたちで、人ごみの非常に多い、お祭りの喧騒を避けて、こちらの歴史資料館の方でこういった展示がありますよ、何々町の何を展示しますよといったことがあると、またそれなりの方が来ていただけるんじゃないかなという気がいたしますし、そういった見せ方が、文化財の保存には必要な視点じゃないかな、と思います。

同じようなことなんですけど、建造物の彩色の修理をいたしまして、近年ですと、西本願寺唐門の修理を終えたところでございます。その時も、唐門に付いております彫刻類を全部、修理のために取り外して、下で彩色のやり直しとか彫刻のやり直しをしております。そういった文化財修理と連携しながら、その下りている時っていうのは、100年に一度とか、50年に一度のすごいタイミングなんですけど、その時に、展示をするっていうのを考えてみたらどうかなあって、いつもこっそり提案はするんですけど、工期がねえといったところで、実現はしておりません。

少し、文化財保護課さんの修理の期間を多めにとって、その中での収益を充てるってことも含めて、現状の保護を考えるってことと、いろいろ連携して行って、皆さんの理解も深まるということもありますし、修理所も少しは何かあるかもしれませんということも考えて、大きな視点から、文化財の修理と、館との、せつかく、京都市同士の施設ですので、そ

のあたりの何か連携みたいなこと、もう少し、高いところからのお話しあいになるかという気はしますけども。

【京都市】

直接の回答になるかわかりませんが、令和元年度に「京都市指定の文化財」の紹介もさせていただいたり、令和2年度にも「京都市指定の文化財」展というものをしております、その中では、文化財の修理の紹介もさせていただいたところで、今後も機会があれば、そういう展示も考えられればなあと思っている次第です。

【京都市】

おそらく2年度の歴史資料館の展示の中で、市の指定文化財にもさせていただき、絵画の修理の展示をさせていただきましたし、映像で仏像の修理の様子を流させていただいておりました。確か、私の記憶が正しければ、同じタイミングで京都の国立博物館で、文化財の修理をテーマにした展覧会をしていたはずなんです。同じ映像で映っていた仏像、すいません名前はぜんぜん分かんないんですけど、も展示されていた。偶然かもしれないんで、そこはわからないんですけども、そういうなことはやりました。

先生おっしゃるように、やはり修理というのは、何十年に一度、何百年に一度というタイミングがでもあるので、今一度、そういうタイミングが合えば、ご覧いただく、その時しか見れないものってたくさんあると思いますし、いわゆる互助事業であるとか、なにかしの逆にご覧いただいた人からご寄付いただいて、それを修理に充てるとかですね、そういうようなきっかけをつくれるような、やり方はあるんじゃないかと思います。言い出すと、夢はどんどんと広がっていくんですけども、そういうこともしたいと思います。京都市自体も、寄付を集めようと、ふるさと納税というものも京都市自体も積極的に始めましたし、企業側のふるさと納税というものもしましたし、そういうことを活用するかたちで、うまいこと展覧会に結び付けるようなこと、修理事業に結び付けていくことができるようになればいいなと思っております。ちょっとあとは夢の話ではありますけれども、そういうこと、考えていければと思います。

【京都市】

祇園祭とのタイアップについてですけど、今回、祇園祭との関係で、協力しております。そういう調査から、今後も考えられるか、ヒントになるかなあと思います。令和4年度の事業は、だいたいやりたいことは、固まってまいりましたが、次年度以降そういったご指摘もヒントになるかなあと思っております。ありがとうございます。

(6) 歴史資料館運営予算について、質疑

(資料6に基づき説明)

【評議員】

40年ですか。そうなんですね。林屋先生の名前も出てね、懐かしいですね。市史編さん所から出発して、もうリタイヤしましたけど、市史編さんの延長での仕事って、なかなかできひんかったですね。でもまあ、最後に、余計なことですけど、史料持ってきた人が、まあ史料調査やな、ここでいったら、めったにないパターンでしょうけど、終活、エンディングノートですか、そのために、いろんなところに、自分の家に古文書があるんで、持ち込んできはって。まあ、面白かったです。見たことなかったんでね。

そういう機会にもなるんで、いろいろ事業として成立しているのは、それも大事だと思うんですけど、ひとつひとつの関係、そこにノルマがあるという、そういう仕事としてなんか、やっていけたらよかったなあと、今頃になって、もうやめる直前にそういうのに出くわしてね、そういうかたちで、古文書をもって、人を支えていく、そういうのをずっと続けていただいたら、ありがたいなあと、以上です。

【京都市】

ありがとうございます。私も3年間だけになりますけれども、この施設にとって、大事なのは市史編さんでありました。市史編さんの時には、それで手一杯だったんだろうなあと、推察させていただいております。

その機能が平成26年に終わりました、現在の、古文書の調査・研究というのがメインになったわけなんですけど、まあ、その、抱えていた市史編纂というもののために、ちょっと目録作成というところまでは、なかなか手が回らなかったんだなあと、感じているところで、今後、その反省点に立って、やってまいりたいなあと思っているところでして、今の調査・研究になりますと、人との関係を大切にしたい仕事というのを、心がけていけたらなあと思っております、今後とも、ご指導いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

【評議員】

Twitterについてなんですけど、いま学芸員さんが結構Twitterで発信されています。今後、博物館法が変わるっていうので、すごい話題になってて、稼げる博物館になれよっていうのを文科省に言われてますけど、じゃあ稼げる博物館ってどんな姿なのかとか、資料類をどう扱うべきとか、予算ないし、売るもんってないよなって話を見てて、さっき言ったような、京都市の博物館の新しく作る構想って儲かるもんなんかとか、そういう、じゃあ儲かる部分ってどういうところやとか、いろいろ思うところがあったんですけど、どうでしょうか。

【京都市】

文化で儲ける稼ぐという気は、あんまり、何というか、下品なことばだなっと思ってるんですけど、博物館自体で稼いでいこうっていうのは、今の財政的なこと、経済的なことを考えると、ちょっと違うと思うんですけど、黒字を出そうとか、そういうことは恐らく、できることではないですし、博物館のそもそもの役割を考えた時に、社会教育施設であったり、評議員がおっしゃったように、市民とのつながりであったりとか、そういう機能を考えた時に、必ずしももうけることではない。ただ、いくばくかの収入というのも得るような、機能も必要なんだと思うんです。必ずしも、博物館の議論を私もぜんぶ追えているわけではないんですけど、必ずしも、稼がないといけない、稼ぐ方向にいつちやってしまうとまた、博物館って何なのって話になるんで、そういうことにはならないようにしなきゃいけないと思うんですね。あくまで、ちゃんとした調査・研究をして、展示をしていくということ、ここでいうと出身地に帰って、原則というのあったうえで、あと、どういうことができいくか、いわゆる活用というもの、そういうことをよく考えていくんだらうと思っております。

調査会の方の話もありますが、必ずしも、黒字を出せと言っているわけでは私はないと思っております。博物館施設で黒字を出せと求められているわけではないんですけど、いずれにせよ、なにがしらのことはしないといけない。いずれにせよ、基本的なところはきちんと押さえてやっていくと、いうことを考えると、稼がないと言うと、言い方はどうかと思えますけど、必ずしも稼ぐことが使命ではないと思っています。

【評議員】

感想というか、展示室ですね、入館料無料の館だと思うので、たぶん入館料設ければ、もっとこう、恐らく、それに値するような素晴らしい展示を年に4回以上ですか、やっておられると思います。入館者数と、そのかかった経費、あんなにノルマを課せられてやっておられるのかと思うと、びっくりしたようなことなんですけど、でも本当に、入館料、収入としてないけれども、こんなに素晴らしい内容の、入館料を取ってやっているような館に、勝るとも劣らないような展示を毎回やっておられる様に思っておりましたし、無料で配っておられるものも、無料だとは思えない内容のものを毎回刷っておられて、やっておられると思っております。

ただ、今まで通り、無料でやっておられるということに、本来の資料館としての、地域の資料館としての、役割を果たせている部分があるのではないかと思いますし、それは今まで通りやっていただきたいんですけども、その、さらに大きな注目を集めて、たくさんの方が押し寄せるようなものを目指したりするのではなくって、今のような、充実した内容で、市民の人たちがほんとに大事にしてきたものを、調査して、展示されてっていうのを、京歴の良さっていうのか、やっていただきたいと思えますし、市電とか、すごくたくさんひとが来はって、でも「村のさむらい」の展示で100人もノルマが課せられているのは、すご

いびっくりですけど、それに70何人も来てはるっていうのは、京都市の文化力ってすごいなって思ったんですけど、そういうことにも評価が与えられるような、資料館であっていただきたいなって思ったりしております。あんまりちゃんとまとまってませんけど。

【京都市】

ありがとうございます。目標入場者数については、実は昨年度から、私の方が申し上げて入れてもらってます。やはり何か目標あったほうがいいだろうと。ノルマでは決してないんですね。ノルマではなくて、何か目標がないと、やはり、その、お客さんあつての博物館・資料館であったりするわけですから、その方がいいだろうということで、やってもらってます。だから、これが達しなかったからといって、ペナルティとか決してないし、思ってます。

入場料の話は、当然、今の市の財政状況を考えても、いろいろ議論が少しあったんですけど、やはりなかなか難しだろうと、施設の物理的な面も含めながら、難しだろうということで、今は無料となっています。ただ、いいものを先生おっしゃるように、つくってます。その図録というか、リーフレットを。そういうものをつくることによって、有料化することによって、今より質の良いものをできますし、どういうことをやれば、来館者の人に見ていただけるかということ、うちの質もより上がると思いますし、そういう効果もあるんじゃないかなって思っております。そのへんはそういうこと、やっていければなあと思っております。

いずれにせよ、入場料金については、恐らく歴史資料館の Facebook で見たんですけど、資料館が入場無料でよかったと、京都市民でよかったなあみたいなコメントがあったんですね。だから、逆に言うと、無料で感想をいただけるのが、ありがたいなと、実は、強烈に思っております。その部分、先ほど申し上げたように、物理的なものはなかなか難しいんですけど、恐らく、当面は入場無料で、いろいろ提供させていただくところで一部有料とさせていただくということで、バランスをとっていききたいなあと思っております。すいません、とりあえずは以上です。

【京都市】

それでは、閉会に向けて、おさらいになりますけれども、今年度はですね、幅広い年齢層に資料館を知っていただき、活用いただけるよう、指定に関する展示会を開催させていただきましたほか、昨年度の大河ドラマにも登場しました、幕末に活躍された岩倉具視に焦点を当てた展示会を開催するなど、市民の皆様の関心の高い展示テーマを設定することにより新型コロナウイルスにより、65日間の閉館もございましたものの、このままいけば、入館者数は過去最大となる見込みです。

また京都の歴史が散逸することを防ぐために、今後も調査を、大学等の関係機関と連携して進めてまいりました。令和4年度は、歴史資料館開館40周年記念を迎えることから、記念事業に対する大幅な経費計上は叶いませんでしたが、工夫を凝らした展示や講座を開催することにより、より多くの市民の皆様に、より身近に利用いただき、京都の歴史・文化を

引き継いでいくことができるよう、取り組みを進めてまいりたいと考えております。限られた予算の中ではございますが、工夫して、最小の経費で最大の効果をもたらせるよう努力してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、評議委員の皆様、委員の任期についてでございます。皆様方の任期につきましては、令和3年4月1日から令和5年3月31日までの2年間となっております。令和4年度も引き続きお世話になりたいと考えておりますので、2年目も、引き続き、どうかよろしく願いいたします。

最後となりましたけれども、山口部長の方から、ご挨拶、御礼を申し上げたいと思います。

【京都市】

すいません、お忙しい中、時間を超過しまして、たいへん申し訳ございません。いろいろとご意見頂戴いたし、非常にありがとうございます。

今までご報告させていただきましたように、今年度、非常に、入館者を含めてですね、非常に充実した事業ができたのではないかと考えています。これは歴史資料館のスタッフ一同、文化財保護課のスタッフと、非常にがんばっていただいたこともあってですね、入館者も増えましたし、特に、いろいろなところ、連携をしてきた、できたのが大きな収穫だったのではなかろうかと思っています。

来年度は、開館40周年ということでございまして、いろいろな企画をさせていただきたいと、思いますし、世の中は、美術館NFTとか、データバンク、デジタルとかだいたい進んできたという状況ではありますけど、その中で、われわれとしては、着実にということで、いろいろなものをFacebook・Twitterとかもですが、デジタル化を少しずつですが、進めたいと思いますし、基盤整備も併せてしていきたいと思っています。

引き続き、いろいろな発信であるとか、連携もしっかりしていくということ、努力してまいりたいと思っています。

そういう意味でですね、引き続き、歴史資料館をですね、温かく見守っていただきたいと、思いますし、ご意見もいろんな形で遂次、いただければと思います。

今日は、お忙しい中、本当に長時間ありがとうございます。あらためて御礼申しあげます、ありがとうございました。

【京都市】

それでは、閉会とさせていただきます。誠にありがとうございました。

以上